

Sun Java™ System Web Server 6.1

セキュアだからこそ、開かれた窓になる



Key feature highlights

セキュリティ・リスクの軽減、頑強なアクセス・コントロールと認証機構、最新のセキュア・レイヤ通信機能をサポート

プロセス・レベルでのJava™ Virtual Machine (JVM™)実行環境が生み出す高性能なJavaアプリケーション・プラットフォームが、ユーザのパーソナライズな環境を実現

数百万のユーザが存在するサイトの管理や、統合されたWebサーバ・クラスタ管理、バーチャルサーバ管理、ダイナミックなコンフィグレーション、SNMPモニタリング、レプリケートされたサーバ共通のコンフィグレーションなど複雑なWebサイト管理を容易に

複数のバーチャルサーバ・ホスティング環境による拡張性

アプリケーション再利用性の最大化と開発者とのコラボレーション

最適化された、プロセス・モニタ、自動化されたフェイルオーバー機能と再起動機能、クラスタリング・サポートをビルトイン、動的なログ・ローテーション、動的なセッティングの再コンフィグレーション

マルチプロセッシング、マルチスレッド構造、拡張性を可能にする「keep-alive」、HTTP 1.1対応、Solaris™ Network Cache Acceleratorとの融合、ハードウェアによるSSL(セキュア・ソケット・レイヤ)アクセラレートなどにより、数千の同時接続にも対処可能

WebサービスとEコマースなどの迅速なサイト構築

Webサーバは世界に開かれた窓です。どんな時でも、世界中のどこからでも、「接続」「コミュニケーション」「コラボレーション」が可能になることを意味します。

Sun Java System Web Server 6.1は世界中の大規模なWebサイトの多くを支えています。安全でかつ高性能で、拡張性と柔軟性に富んだWebサーバは、静的 / 動的なコンテンツを問わず、マーケット・デマンドに迅速に対応して公開することを可能にします。実証されたセキュリティ・トラック・レコードや、拡張性をもったHTTP 1.1のコネクションkeep-alive、バーチャル・ドメインのサポート、インテグレートされたWebコンテンツなどSun Java System Web Serverが提供する主な機能が、エンドユーザの快適な環境を保ちつつWeb資産と顧客の保護を可能にします。業界標準のソリューションが、Webサービスなどの新しいサービスの提供を可能にし、ROIを向上させ、コストをかけずに絶大な顧客満足度の向上をもたらします。

Webセキュリティの向上

今日あらゆる業界において、攻撃目標となるのはWebサーバです。この事実を考慮すれば、可能な限りセキュアなWebサーバの導入が、今までにも増してとても重要であることは疑う余地もありません。

Sun Java System Web Serverは、まさにその機能を提供するために設計されています。

Sun Java System Web Server 6.1は、製品を入手された後すぐにそのまま導入いただいても安心してお使いいただけます。デフォルト状態で、全てのアドミニストレータ権限はOFFになっており、Webサイト公開の際のリスクや危険性を未然に防ぐようになっています。

Sun Java System Web Server 6.1はセキュアなコードを、オペレーティングシステムからの隔離を図ることでクラッキングのリスクを削減し、確実にセキュアなWeb環境をご提供します。

セキュリティに関する堅牢さは、Sun Java System Web Server 6.1の安定性に貢献している数多くの機能のひとつでしかありません。クラッキングによって引き起こされている、他のWebサーバの多大なダウンタイムを一瞥してみても、強力なセキュリティ・パッケージの重要性が見て取れます。

高性能なSun Java System Web Serverは
セキュアに、そして拡張性と柔軟性を兼ね備え、
静的 / 動的を問わず、マーケット・デマンドに速やかに応える
コンテンツを提供することが可能です。

高可用性と迅速な市場への対応

収益と顧客満足度の向上を最大限に伸ばすためには、Webサイトがダウンしていることは許されません。特に、Eコマース・サイトの運営などを行っている場合、高い可用性は必須であると言えます。Sun Java System Web Serverはアップタイムを最大化するための数々の機能を備えています。1つのプロセス強制終了時も、マルチプロセス・モード、自動フェイルオーバー機能が確実にリクエストに応え、終了したプロセス自体も、人間の手を介さずに自動的に再起動します。また、自動的なログ・ローテーション機能は、人の手を介してログのローテーションのためにサーバを停止させる必要性を省きます。必要に応じて、バーチャル・サーバ毎にログ・ファイルを生成可能です。

万が一障害が発生しても、Sun Java System Web Serverを、最新のロード・バランシング・ソリューションと共に稼働させていた場合は、Webアプリケーションとのセッションとトランザクションの損失を最小限に留めます。アクティブなセッション・パスの各々は、アクティブであるセッション情報を複数のWebコンテナ・プロセスとシェアしており、どのWebコンテナも、フロントエンドに障害が発生した場合にロード・バランサからリダイレクトされた、どのコネクションを受け入れることが可能です。この構成により高いウォリアー・オブ・サービス(QoS)と可用性の提供が可能になります。

卓越したエンド・ユーザ環境

競争烈火のEコマース・サイト運営では、求められているコンテンツの迅速な提供が必要になります。でなければ、顧客は離れていってしまうだけです。そして、まだ見ぬ需要も予測し、それに対処しておく必要があります。Sun Java System Web Serverは、独自のマルチスレッド、マルチプロセッシング機構で、高いパフォーマンスと拡張性を提供いたします。

シンメトリック・マルチプロセッサ・サポート、Solaris 8 7/01もしくはSolaris 9に同梱されているSolaris Network Cache Acceleratorとの併用、そして高い拡張性を持ったHTTP 1.1(keep-alive)のコネクション・ハンドリングにより、パフォーマンスはさらに高まります。

Sun Java System Web ServerはSSL 3.0、TLS(トランスポート・レイヤ・セキュリティ)1.0コネクション、そして標準的なSSLハードウェア・アクセラレータ・インタフェースであるPKCS#11をサポートし、セキュアなトランザクションを実現するための高いパフォーマンスを提供します。このアーキテクチャにより、Sun Java System Web Serverは単体で幾千もの同時コネクションに対応することが可能なのです。

コストと複雑さを削減

数え切れない数のバーチャル・サーバが走るマルチサーバ環境、そして、それらが管理する無数の登録ユーザ。今日のWebサイトは複雑さを極めます。Sun Java System Web Serverはこのような環境下のWebサイトにおいて、容易に管理が行えるようなツール群を提供し、管理コストを低く抑えます。サーバの管理者はこのツールの利用により、ユーザ、バーチャル・サーバのクラス、複数のバーチャル・サーバ管理などだけでなく、ダイナミック・リコンフィグレーション・サーバ、アドミニストレータ権限の委譲、サーバ間でのコンフィグレーション・レプリケーション、そして複数のWebサーバ・インスタンスの同時インストールなどが行えます。Sun Java System Identity Serverとの併用、もしくはSun Java System Directory Serverとの統合利用により、Sun Java System Web Serverは数百万ユーザの固有情報の、追加 / 変更 / 削除の集中管理が可能になります。

Sun Java System Web Serverの特徴

Webアプリケーション構築

- Java Servlet 2.3, Java ServerPages™(JSP™) 1.2の仕様に完全に準拠
- Sun Java System Active Server Pagesの利用によりActive Server Pages 3.0(VBScript/ Jscript 5.5)をサポート
- NSAPI, CGI, CFML, そしてPHPをサポート
- Java Development Kit(JDK™) 1.4.1_04 Java実行環境、コネクション・プーリング、Java Naming and Directory Interface 1.1 API、JavaBeans™テクノロジーを含むJDBC™ 3.0仕様の組み込み
- 特定ユーザの情報を追跡するセッション管理サービス
- JSPとJava Servletの両方で利用可能な、Javaベースのアプリケーションを構築可能なSun Java Studio開発ツールの統合
- コマンドライン、GUIのどちらからでもWARファイルの操作が可能
- 高速な実行を可能にするJSPコンポーネントのプリコンパイル
- 各ユーザのアプリケーションとコンポーネントを個別に開発可能
- ユーザ拡張JSPタグ、標準タグ・ライブラリ
- コマンドライン、GUIのどちらからでも操作可能
- 高速なプロセスとして動作する、組み込み型Java Virtual Machine(JVM)の実装
- SHTML利用によるサーバ側でのプリプロセス
- WebDAV(Web Distributed Authoring and Versioning)のサポート
- Netscape™ Application Program Interface (NSAPI)のサポート

バーチャル・ドメインのホスティングに関する特徴

- 無数のバーチャル・サーバのサポートと各バーチャル・サーバ・ユーザへの証明書発行管理
- 各バーチャル・サーバや各サーバ・クラスへの、各々帯域割り当てが可能
- バーチャル・サーバでの、SSLとnon-SSL環境への同時アクセス
- 各バーチャル・サーバに、個別の認証データベースを提供

信頼性と可用性

- マルチプロセッシング・モードとプロセス・モニタの利用により裏付けられた、高いレベルのサーバ・アップタイム
- フェイルオーバー対策として、各ユーザ固有のシェアード・セッション・オブジェクト機能と、UNIX®上でのJava Servlet extensionのマルチプロセッシング対応
- ログ・ローテーションの自動化によるサーバ・ダウンタイム削減
- Resonateなど、代表的なロード・バランシング・ソフトウェアとの統合による、サーブレットのインテリジェント・ロード・バランシング

運用管理

- Webサーバの再起動を必要としない、ダイナミック・リコンフィグレーション
- 各バーチャル・サーバへのアクセス・コントロール・リスト(ACL)の対応、もしくは単一のACLによる全てのバーチャル・サーバの管理
- LDAP(Lightweight Directory Access Protocol)を利用したディレクトリ・サービスの統合
- パスワード・ポリシー、サイト単位でのユーザ・グループ管理のためのSun Java System Directory Serverを同梱
- Sun Java System Identity Server用ポリシー・エージェントを同梱
- クラスタ管理機能のサポートにより容易になった複数のサーバ管理
- CA/Unicenter、HP OpenView、IBM/Tivoli TME、Solarisオペレーティングシステムなど、一般的な管理システムで利用されているSNMP(Simple Network Management Protocol)のサポート
- .htaccessのサポート
- クローン可能なオブジェクトによる完全なインストール、テンプレート化とサイレント・インストールを利用したサーバ間でのコンフィグレーションの複製
- コマンドラインによるHTTPサーバの管理、証明書管理、鍵管理、Webアプリケーションの実装

パフォーマンスと拡張性

- 先進的なマルチプロセッシング、マルチスレッド構成によって実現される高いパフォーマンス。効果的なカーネル・スレッドの活用。SHTML(Server-side-HTML)による洗練されたメモリ管理
- Solaris 8 7/01もしくはSolaris 9に同梱されている Solaris Network Cache Acceleratorとの併用によって引き出される高いキャッシュ・パフォーマンス
- マルチCPU対応機でマルチプロセッシング・モード実行することが可能
- HTTP 1.1とHTTP圧縮への対応
- ハードウェアSSLアクセラレータをサポート
- keep-alive

セキュリティ

- 初期導入段階では、各サービスのデフォルト・コンフィグレーションは全てOFF(secure by default)
- SSLv2、SSLv3、TLE1.0、X.509デジタル証明書サポート
- PKCS #11、FIPS-140、168-bit、step-up certificate など標準的なセキュリティ規格に対応
- LDAPの証明書マッピングによるセキュリティの集中管理が可能
- 各バーチャル・サーバ毎にSSLパラメータの設定が可能
- Sun Java System Directory Serverとの併用により、各バーチャル・サーバ毎のダイジェスト認証が可能
- 異なるユーザID毎によるCGI稼動が可能
- 複数のWebアプリケーション(もしくはJava Servlet

contexts)へのシングル・サインオン

コンテンツ・マネージメント

- 組み込みサーチ・エンジンによる全文検索、条件検索(国際化対応)
- Netscape Composerによる1ボタン・パブリッシングに対応

Sunのソフトウェア製品について

デスクトップからデータセンターまで、Sunのソフトウェアが目指しているのは、使い易さ、ネットワーク接続の維持、安価なコンピューティング環境の提供を実現する、最も優れたエンド・トゥ・エンドのソリューションです。ソフトウェア製品の詳細な情報は、下記のURLをご覧ください。

sun.co.jp/software/

Sunについて

コストの削減に貢献し、確かな競争力となり、お客様のビジネス成長の促進をSunは、目標としてきました。

Sunは、今日のネットワーク社会を構成する頑強なハードウェア、ソフトウェア、サービス、そしてテクノロジーを提供しています。Sunについての詳しい内容は、下記のURLをご覧ください。

sun.co.jp/

システム要件

- Solaris 9(SPARC®版および x86版)
- Solaris 8(SPARC版)
- Red Hat Linux Advanced Server 2.1
- Microsoft Windows 2000 Server、Microsoft Windows XP
- JDK release: 1.4.1_03以降

サン・マイクロシステムズ株式会社

| | | | |
|--------|---|-------------------|--------------------|
| 本社 | 〒158-8633 東京都世田谷区用賀4-10-1 | SBSタワー | 電話(03)6717 5000(代) |
| 山王オフィス | 〒100-6160 東京都千代田区永田町2-11-1 | 山王パークタワー12F | 電話(03)4232 2400(代) |
| 中部支社 | 〒460-0002 名古屋市中区丸の内2 14 4 | エグゼ丸の内507 | 電話(052)203 1233(代) |
| 大阪支社 | 〒541-0052 大阪市中央区安土町1-8-15 | 野村不動産大阪ビル5F | 電話(06)6265 5700(代) |
| 九州支社 | 〒814-0001 福岡市早良区百道浜2-1-22 | 福岡SRPセンタービル3F 308 | 電話(092)834 0100(代) |
| つくば営業所 | 〒305-0032 茨城県つくば市竹園1-6-1 | つくば三井ビルディング11F | 電話(0298)51 2210(代) |
| 豊田営業所 | 〒471-0833 愛知県豊田市山之手5-73-1 | 山之手ビル7F | 電話(0565)25 5700(代) |
| ホームページ | http://sun.co.jp/ | | |



© 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun, Sun Microsystems, サンのロゴマーク、Solarisは、米国Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 すべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国の商標または登録商標です。 SPARC商標が付いた製品は、米国Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。 UNIXは、X/Open Company Ltd. が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。 Netscapeは、Netscape Communications Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。 その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

資料の内容は、お断りなしに変更することもありますのでご了承ください。